

東北楽天ゴールデンイーグルスが宮城県に及ぼす経済効果について

1 概要

2014シーズン終了による観客数の確定を受け、アンケート調査^{*1}や楽天野球団からのヒアリングを基に、東北楽天ゴールデンイーグルス一軍ホームゲームの開催が宮城県内に与えた経済効果^{*2}を推計した。

推計に当たっては、観客動員実績を基に一試合当たりの観客数を20,153人、観客一人当たりの消費額を9,060円（日帰り客）とし、一軍ホームゲーム開催時の観客消費による経済効果を宮城県産業連関表（平成17年）^{*3}を用いて算定した。

推計の結果、ゲーム開催による観客の入場料、交通費、飲食費やグッズ購入費などに伴う直接効果が約132億円、直接効果から生じる各産業への波及効果（1次、2次）が約80億円と推計され、合わせて**約212億円の経済効果**が見込まれる。

レギュラーシーズンで比較すると過去最高だった2013シーズンより約25億円の増加となり、これまでで最高となった。観客動員数の増加が大きな要因と考えられる。

なお、2013シーズンの総計（レギュラーシーズンにクライマックスシリーズ及び日本シリーズの経済効果を加えたもの）との比較では約18億円の減少となった。

2 前提

- ① 観客数：楽天Kobo スタジアム宮城において開催された一軍のホームゲームの公式観客数
1,350,293人(試合数:67試合 対象期間:4/1～10/7 一試合平均:20,153人)
- ② 宿泊率：4.2%が宿泊するものと仮定（今年度含め、過去の平均値）
- ③ 観客一人当たりの消費額

日 帰 り 客		入場料	交通費	飲食費	グッズ購入費	計
	今季	2,420円	1,152円	2,889円	2,599円	9,060円
	昨季	2,431円	992円	2,818円	2,734円	8,975円
	増減	-11円	160円	71円	-135円	85円

宿 泊 客		入場料	交通費	宿泊・飲食費	グッズ購入費	計
	今季	2,420円	7,236円	14,816円	5,239円	29,711円
	昨季	2,431円	5,706円	15,707円	3,589円	27,433円
	増減	-11円	1,530円	-891円	1,650円	2,278円

※1 平成26年9月21日(日)のホームゲームにおいて、観客一人当たりの消費額、年齢層、居住地、交通手段等を調査。有効回答は491件。

※2 ゲーム開催による観客の消費（直接効果）は、飲食やグッズなどの原材料の供給を通じて他の産業の生産にも波及する（第一次効果）。また、直接効果と第一次効果によって生み出された雇用者所得が消費に回ることにより、さらに生産を誘発する（第二次効果）。これらを合計したものが経済効果。

また、こうした経済効果により、多くの雇用が維持されているものと考えられる（誘発される雇用者数）。

ただし、いずれも計算モデルに基づく推計値であることに注意が必要。

※3 産業連関表は、産業相互間及び産業・最終消費者間の取引を一覧表にまとめたもので、その表から導き出される係数を用いて、経済効果を分析することが可能。なお、平成17年の産業連関表が最新。

3 推定結果

区 分		2014 シーズン	2013 シーズン	増減（増減率）	要 因
前提条件	試合数	67 試合	67 試合	0 試合 (0.0%)	○観客数の増加
	年間観客数	1,350,293 人	1,184,981 人	165,312 人(14.0%)	
	一試合平均観客数	20,153 人	17,686 人	2,467 人 (13.9%)	
	観客一人当たりの消費額（日帰り客）	9,060 円	8,975 円	85 円 (0.9%)	○消費額の増加
経済波及効果 A+B	212 億円 〔一試合当たり〕 3.2 億円	187 億円 〔一試合当たり〕 2.8 億円	25 億円 (13.4%)		
直接効果 A	132 億円	115 億円	17 億円 (14.8%)		
1次・2次波及効果 B	80 億円	72 億円	8 億円 (11.1%)		
誘発される雇用者数	1,997 人	1,769 人	228 人 (12.9%)		

4 その他の経済効果

ホームゲーム開催による経済効果以外にも、以下をはじめとした各種の大きな効果が見込まれる。

①シティセールス効果

プロ野球は全国への情報発信力が高く、テレビや新聞などマスメディアを通じ地域の知名度が向上

②球場周辺の投資誘発効果

球場周辺から仙台駅周辺にかけて、ホテル、マンションや店舗などの投資を誘発

③球団運営による消費効果

宮城県内での二軍戦開催、ホームゲーム開催時以外の事業活動（物販、広告など）や球場の管理などによる消費効果

④ビジター(対戦)球団や取材メディアによる消費効果

来県するビジター球団の選手や帯同スタッフ、取材メディアの飲食や宿泊などによる消費効果

⑤選手の居住による消費効果

高額所得の選手が、県内に居住することによる消費効果

5 2005シーズンからの累計

2014シーズンは、東北楽天ゴールデンイーグルスの日本プロ野球への参入から10シーズン目にあたる。2005シーズンより推計してきた経済波及効果を集計し、10年間における観客消費に係る経済波及効果を算定すると、直接効果が約907億円、直接効果から生じる各産業への波及効果が約576億円となり、あわせて約1,483億円の経済波及効果があったものと推計される。

集計には、レギュラーシーズンのほかに2009年のクライマックスシリーズ（2試合）及び2013年のクライマックスシリーズ（4試合）と日本シリーズ（4試合）の波及効果も含めている。

(参考) 経済効果の年次推移

区分		2014 シーズン	2013 シーズン	2013 CS	2013 日本シリーズ	2012 シーズン	2011 シーズン	2010 シーズン
前提条件	試合数	67試合	67試合	4試合	4試合	68試合	63試合	68試合
	年間観客数	1,350,293人	1,184,981人	97,089人	100,948人	1,102,688人	1,001,648人	1,067,334人
	一試合平均観客数	20,153人	17,686人	24,272人	25,237人	16,216人	15,899人	15,696人
	一人当たりの消費額 (日帰り客)	9,060円	8,975円	11,258円	14,095円	7,531円	7,069円	7,615円
観客消費 経済波及効果 A+B	観客消費	212億円	187億円	18.9億円	24.4億円	145億円	124億円	138億円
	一試合当たり	3.2億円	2.8億円	4.7億円	6.1億円	2.1億円	2.0億円	2.0億円
	直接効果 A	132億円	115億円	11.7億円	15.0億円	89億円	76億円	86億円
	1次・2次 波及効果 B	80億円	72億円	7.2億円	9.4億円	56億円	48億円	52億円
	誘発される 雇用者数	1,997人	1,769人	183人	234人	1,392人	1,225人	1,363人

区分		2009 シーズン	2009 CS	2008 シーズン	2007 シーズン	2006 シーズン	2005 シーズン
前提条件	試合数	70試合	2試合	70試合	71試合	62試合	64試合
	年間観客数	1,179,770人	42,691人	1,131,173人	1,123,657人	905,820人	939,566人
	一試合平均観客数	16,854人	21,346人	16,160人	15,826人	14,610人	14,681人
	一人当たりの消費額 (日帰り客)	7,277円	8,328円	6,302円	6,617円	6,100円	6,911円
観客消費 経済波及効果 A+B	観客消費	155億円	6.5億円	125億円	129億円	97億円	121億円
	一試合当たり	2.2億円	3.25億円	1.8億円	1.8億円	1.6億円	1.9億円
	直接効果 A	93億円	3.9億円	75億円	78億円	59億円	73億円
	1次・2次 波及効果 B	62億円	2.6億円	50億円	51億円	38億円	48億円
	誘発される 雇用者数	1,427人	60人	1,115人	1,174人	876人	1,129人